

才

色

兼

備

地域や患者に貢献し、多忙を極める女性院長は、仕事とプライベートをどのように両立しているのか。また、女性ならではの視点はどうマネジメントに活かしているのか。女性院長の思いと生き方を探る。

ハピコクリニック五反田・院長

岸本久美子

Kishimoto Kumiko



自らの出産・育児をきっかけに 女性の働きやすい環境づくりを決意

「happy co-working」——女性

医師や女性スタッフが安心して働き続けられる環境をつくりながら、患者にも幸せになつてもらう。ハピコワクリニック五反田の岸本久美子院長が開業を決意したのは、そんな思いを実現するためだ。

「私が勤務医時代に妊娠・出産した際、医局から職場復帰を温かくフォローしてもらえました。ただ、友人の女性医師や周りの女性スタッフに話を聞くと、そうしたケースはまだまだ少ないことを知りました。出産・育児、介護、そのほかいろいろな事情があつてもキャリアを中

断せずに済む環境にしたいと考えています」(岸本院長)

同じ想いを共有する仲間が集まっているため、チームワークはよい。実際に開業から1年、どうすればより働きやすく、患者さんによることももらえるか、スタッフとアイデアを出し合いながら今も試行錯誤の毎日だという。

一方、家庭では一児の母として夫と協力しながら育児の真つ最中だ。しつかり子どもと向き合うため、家に仕事は持ち込まず、休むときは休み、遊ぶときは全力で遊ぶ、オン・オフをきちんと切り替えることがモットーだ。

より多くの女性が気持ちよく働き続けられるように、将来的には組織の拡大も視野に入れる岸本院長。自らの経験を踏まえ、こんなアドバイスを送る。

「必要な研さんを積むのは大前提ですが、開業を決意したら、体力気力が充実しているうちに実行したほうが良いと思います。私もそうでしたが、『やるぞ!』という気持ちと体力が十分だと、開業準備も細かい部分まで目を向ける余裕が生まれるものです。やりたいことを妥協しないためにも、思い立ったら先延ばしせず踏み出すのが大切だと思います」

Q 医師を志したきっかけは何ですか？

A. 子どものころから生涯現役で働き続けられる仕事をしたいと思っていました。そのなかで医師は、頑張つて治療することで目の前の患者さんを笑顔にできるというやり方がシンプルであり、やりがいがありそうだったのです。

Q 日々の生活でルーチンにしていることはありますか？

A. 開業後は毎朝一番に出勤して、コーヒーを飲みながら今日の仕事の予定や昨日の診療の振り返りなどの考える時間をつくっています。10分程度の短い時間ですが、その間に頭の中を整理する習慣をつけることで、その後の仕事にも集中できます。

Q 人生最期の日、どんなものが食べたいですか？

A. クレープです。甘いものは何でも好きですが、クレープはそのなかでも一番好きなお菓子で、休日もよく娘と一緒においしい店を探しに行きます。最期なら、胸やけを気にせずたくさん食べてみたいですね。

Q 休日はどのように過ごされていますか？

A. 子どもとたくさん遊ぶようにしています。仕事中はずっと室内なので、その分、公園で遊んだり、カフェやお菓子屋さんに行ってお茶をしたり、外出して遊ぶことが多いですね。

Q 印象的だった出会いはありますか？

A. 呼吸器内科の恩師です。研修医時代に、恩師を含めどの呼吸器内科の先生もとても熱心で呼吸器内科が大好きなのが伝わってきたのが、私が呼吸器内科に興味を持ったきっかけでした。あるとき選んでいなかったら、今の私はなかったでしょう。